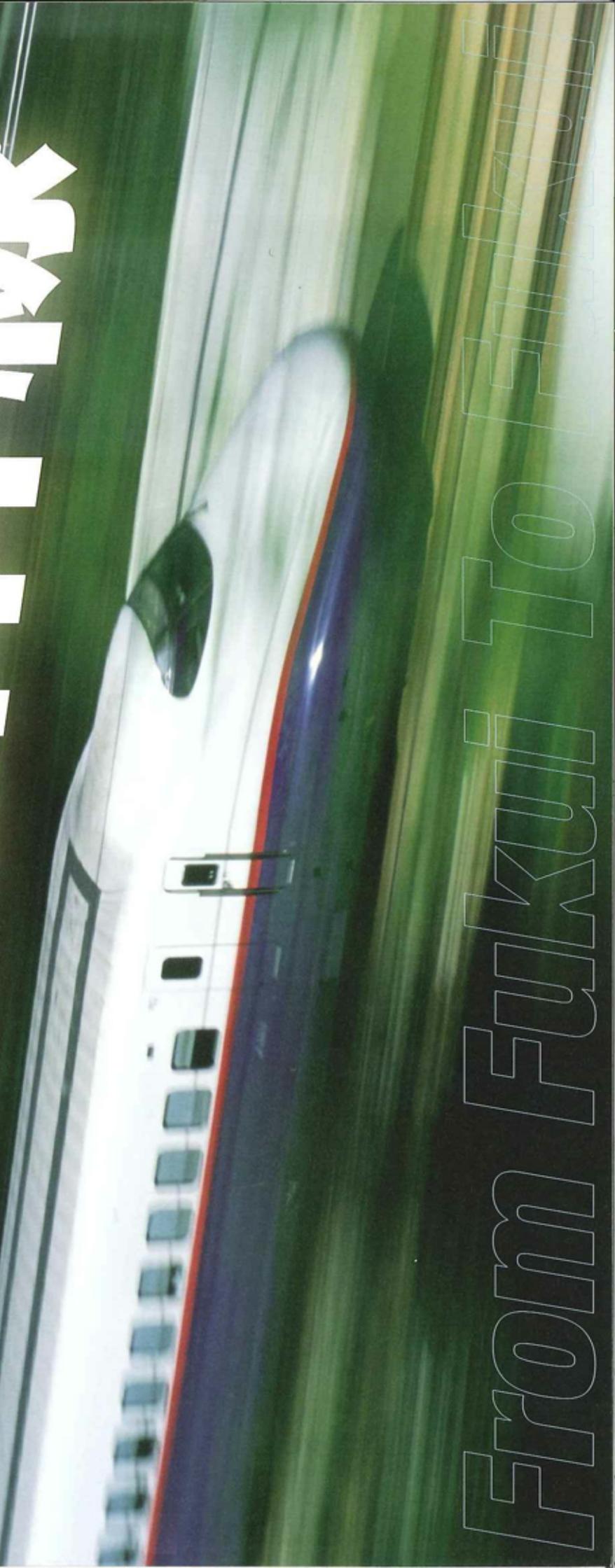


府県・政令市・経済団体等の補足説明資料

- 1 . 福井県
- 2 . 大阪府
- 3 . 奈良県
- 4 . 徳島県
- 5 . 京都市
- 6 . 大阪市
- 7 . 堺市
- 8 . 神戸市

目指そう!北陸3県同時期での福井開業、敦賀までの早期整備

北陸新幹線



From Fukui To Fukuoka

(写し)

平成18年12月26日

国土交通大臣 冬柴 鐵三 様

大阪府知事 太田 房江

国土形成計画（全国計画）中間とりまとめに対する意見

日ごろから大阪府政の推進に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、去る11月16日に国土審議会計画部会において国土形成計画（全国計画）「中間とりまとめ案」が策定され、11月27日に国土審議会に報告されました。

この中間とりまとめにつきましては、これまで大阪府が主張してきた事項についても一定ご配慮いただいた点は評価しておりますが、なお、「東京一極集中是正」に向けた国土のあり方や首都機能の危機管理(バックアップ)等については、更なる検討を期待しております。

つきましては、中間とりまとめに対する大阪府の意見を取り急ぎとりまとめましたので、下記のとおり申し述べます。

今後の検討に際して、ご考慮いただきますようお願い申し上げます。

記

1 全般に関して

- ・ 今回の計画は、人口減少という社会経済環境の大きな転換期の中、今後の国土づくりの方向性を明らかにするという非常に重要なものであるが、中間とりまとめでは、国として国土をどう描いていこうとしているのか明確な姿勢が見えない。個々の課題については、広域地方計画策定の議論において、各ブロックが地域事情に即した検討を進めていくことになるが、国として、東京一極是正に向けた国土構造の形成や、人口減少社会においても地域が特色を活かして発展していくことができる国土政策を明確に打ち出すべきである。
- ・ また、「地方分権や市町村合併、規制改革の進展等によって地域の自主決定力が強化される」(5 頁)と記述されているが、まだまだ地方に権限、財源が十分移譲されておらず、「自立に向けた環境が整いつつある」(5 頁)とは到底言いがたい状況である。地方の意思により十分意味のある計画が策定でき、かつ、それが実現できるよう、真の自立実現に向けて、引き続き国の権限、財源の移譲を進めるよう記載すべきである。

2 「第2 新しい国土像」について

① 東京一極集中の是正

- ・ 東京一極集中はますます進んでいる状況であるが、中間とりまとめでは、東京一極集中の是正の必要性は一応指摘されているものの、これに対する評価や課題等について十分な考察がなく、前回の全国総合計画よりも後退している感がある。
- ・ 一極一軸型の国土構造を是正するため、広域ブロックが「その有する資源を最大限に活かした特色ある地域戦略を描くことにより、諸機能について東京に過度に依存しない自立的な圏域を形成する国土構造への転換を目指す」(6 ㉟)ことは確かに重要であるが、併せて、人・物・金・情報が東京に集中していくわが国の国土構造・システムを抜本的に変革することが必要である。そうでなければ、たとえ地域が魅力ある地域戦略を描いたとしても、地域で育てたものが東京に吸い寄せられるだけで、結局地域が東京に依存せざるを得ないという状況は変わらず、国土全体が活性化することは難しいのではないか。最終とりまとめに向け、東京一極集中是正に向けた国の明確な方針と対策を打ち出すべきである。

② 双眼的な国土構造の必要性

- ・ 大阪・関西圏は、これまで首都圏とともに双眼的な国土構造の一翼を担ってきた。二大都市(圏)がそれぞれの個性を発揮して機能を分担することが国土の健全な発展のために必要なことは歴史や諸外国の例が示すところであり、「巨大な首都圏対各ブロック」という関係ではなく、健全な二極が相互に切磋琢磨し、連携・補完することにより、国や地域が発展できる国土構造を維持することが重要であると考えられる。自立的な広域ブロックの形成と併せて、こうした双眼的な国土構造の重要性について言及すべきである。

3 「第3 計画のねらいと戦略的取組」について

① 首都機能のバックアップについて

- ・ 東京が大規模な災害・テロ等により大きな被害を受けた場合においても、首都機能を継続・確保していくことは、「災害に強いしなやかな国土」(19～21 ㉟)を形成する観点からも非常に重要な課題である。中間とりまとめには「国や広域ブロックの経済・社会機能の中枢を担う大都市圏及び地方の中枢・中核都市においては、これら中枢機能の相互ネットワーク化を通じた相互補完・代替性の強化……に努めるべき」(21 ㉟)とは記載されているが、さらに踏み込んで、国家の危機管理のため、国土政策として首都機能のバックアップが必要であると記述すべきである。

さらに、大阪・関西には首都のバックアップを果たすに相応しい機能が集積しており、新たに大掛かりな投資を必要としない。ストックを有効に活用できる大阪・関西を首都機能のバックアップエリアとして位置付けるべきである。

- ・ なお、「首都機能移転」については、首都機能の一部を恒久的に移転するため国家百年の大計として進めるものであり、一方、「首都機能バックアップエリア構想」は、首都機

能移転の実現までの間にも発生するかもしれない災害等に備え、大阪・関西が有する既存の施設・機能を活用し、対応しようとするものである。両者は両立する構想であり、齟齬は来たさないと考える。首都機能移転については「国会においてその検討が進められている所であるので、この検討の方向などを踏まえる必要がある」(7 ㉟)としても、災害等の危機事象はいつ発生するか分からないものであり、早急に首都機能のバックアップの議論を進めるべきである。

② アジアとの連携・交流拠点、「シームレスアジア」について

- ・ 中間とりまとめに記載されているとおり、各ブロックがそれぞれの特性を活かしながら、アジアとの連携・交流を発展につなげていくことが重要であるが、とりわけ、大阪・関西は、経済的・歴史的・人的にアジアと深いつながりを有しており、今後ともアジアとの連携・交流の要として我が国の発展に大いに貢献していく地域である。
- ・ 「シームレスアジア」(9～12 ㉟)については、関西は、全国に先駆けて官民共同の「国際物流戦略チーム」(会長：秋山関経連会長)を結成し、24 時間空港である関西国際空港における深夜貨物便の増強に向けた実証実験や大阪湾諸港の一開港化等の取組みを進めているところである。中間とりまとめでは海上貨物輸送を中心に記述されているが、航空輸送についても、今後、貨物輸送や人の交流においてさらに重要性を増すことから、十分記述していただきたい。その際、ゲートウェイとなる大都市拠点空港の役割や航空ネットワークの充実、利便性向上策など国際競争力強化に向けた方策の必要性についても記述すべきである。

③ 持続可能な地域の形成について

- ・ 今後数年間、団塊の世代が大量に退職時期を迎え、「地域への人の誘致・移動を促進するための施策がまとまりを持って展開される必要がある」(18 ㉟)と記述されているが、大都市圏においても、今後とも様々な分野で彼らの経験・ノウハウを活かしながら、都市の発展につなげていくことが不可欠である。住民の自己選択を基本に、大都市圏への居住希望者とのバランスも考慮した施策展開をお願いしたい。

4 「第3章 広域ブロックの形成に向けて」について

- ・ 最終とりまとめに向け、今後、国土審議会計画部会内で、全国計画の第3章において地域別整備の基本方向の検討が進められるとお聞きするが、広域ブロックが有する自由な発想・活力を可能な限り引き出した広域地方計画とするためにも、予め計画内容を過度に方向付けしたり、誘導したりするような指針・項目・キーワード等を盛り込むことは極力避けるとともに、検討にあたっては広域ブロック構成自治体等の意見を十分に尊重していただきたい。

西暦2010年

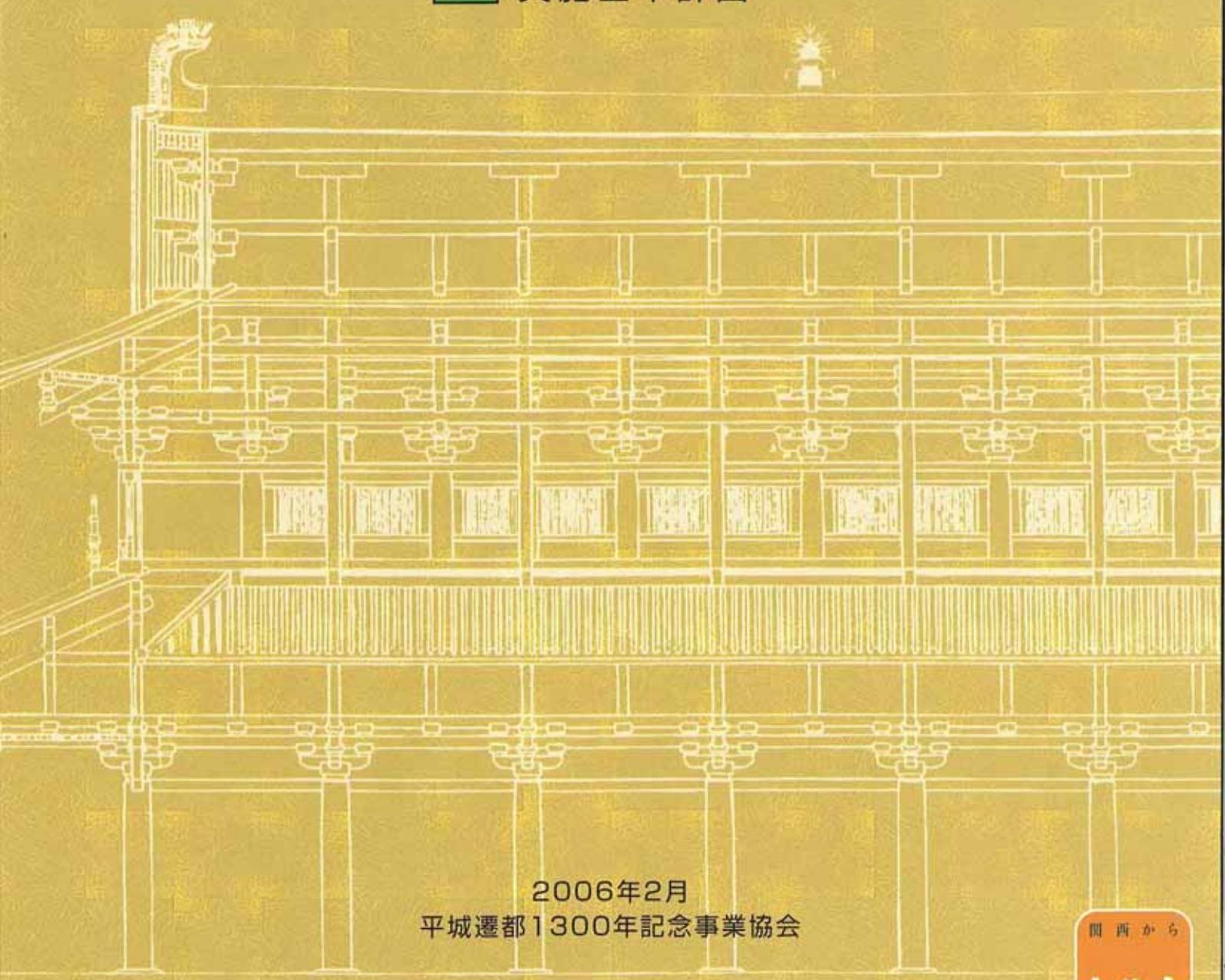
西暦710年「奈良・平城京」の誕生から1300年

平城遷都

1300年

記念事業

実施基本計画



2006年2月

平城遷都1300年記念事業協会



徳島からの広域地方計画への提案

近畿圏の主要論点

①アジアとの交流促進

②近畿の特色を活かした産業振興

③安全・安心の確保

④環境の保全、再生及び循環型社会の構築

⑤个性的で魅力的な地域の形成

⑥近畿らしい風格ある景観、歴史・文化の保全・創出・活用

徳島県の地域資源

○阿波踊り「鳴門の渦潮」「秘境祖谷のかずら橋」など多様な観光資源
○「サーフィン」「カヌー」「ラフティング」「グラススキー」「ゾーブ」など様々なアウトドアスポーツ

○LEDパレイ構想によるLED企業群の集積
○「徳島健康・医療クラスタ」によるバイオ・健康産業の研究

○全国でも有数の生産・収穫量を誇る農畜水産物の生産基地として、安全・安心な食料を提供
○安定した電力エネルギーを提供

○「とくしま環境科学機構(H18.3設立)」による環境研究開発や調査分析等の活用
○清流「穴吹川」
○東洋のベニス「徳島」

○団塊の世代等の「二地域居住」などに対応した受け皿
○充実した医療福祉サービス
○生きがいづくりの場の充実(上勝町の彩り産業、アグリテクスノクル)

○「阿波踊り」「藍染め」「人形浄瑠璃」「第九初演の地」など特色ある文化
○「四国八十八ヶ所遍路文化」
○映画ロケ地として特徴ある風景

四国圏と連携した施策展開

○徳島空港、松山空港等を活用し、関西国際空港と連携した多様な観光ルートの形成
○四国(約400万人)中国(約800万人)の取り込みが可能

○日本一・世界一の産業集積を活かした共同研究や新産業の創出
○「徳島健康・医療クラスタ」「高松稀少糖バイオクラスタ」によるバイオ・健康産業の研究交流

○同一被災の可能性が低いことから、危機事象に対する迅速な支援体制

○「穴吹川」(徳島県)や「四万十川」(高知県)などの清流のイメージを活かした水辺の環境保全
○森林ボランティアの育成等官民一体となった森林整備体制の確立

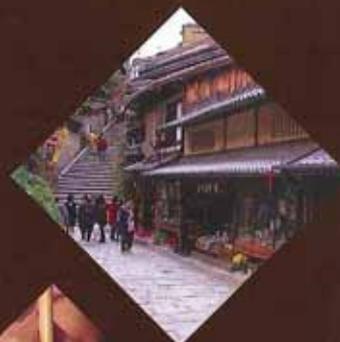
○温暖な気候等を活かした
・団塊の世代等の「二地域居住」などに対応した幅広い受け皿
・「お接待」や「おもてなしの心」等にあふれる「いやし」の場」「やすらぎの場」
としての活用

○「阿波踊り」「よさこい踊り」と連携した「踊り文化」の創造
○世界遺産登録を目指している「四国八十八箇所遍路文化」の歴史文化イメージへの取り込み
○関東の「そば」に対する、「うどん」「ラーメン」「そうめん」などの多彩な「めん文化」の発信
○都市型のみならず、海・山・川など、何でもフルセットで提供できるロケ地としての売り出し

近畿圏広域計画

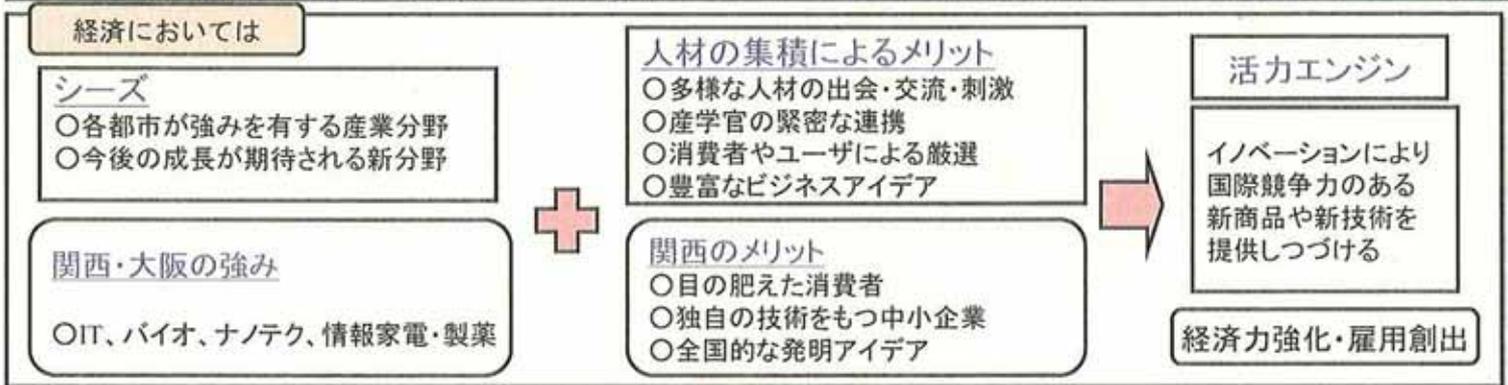
歴史都市・ 京都の創生を

美しい日本の京都を守り、未来へ、世界へ

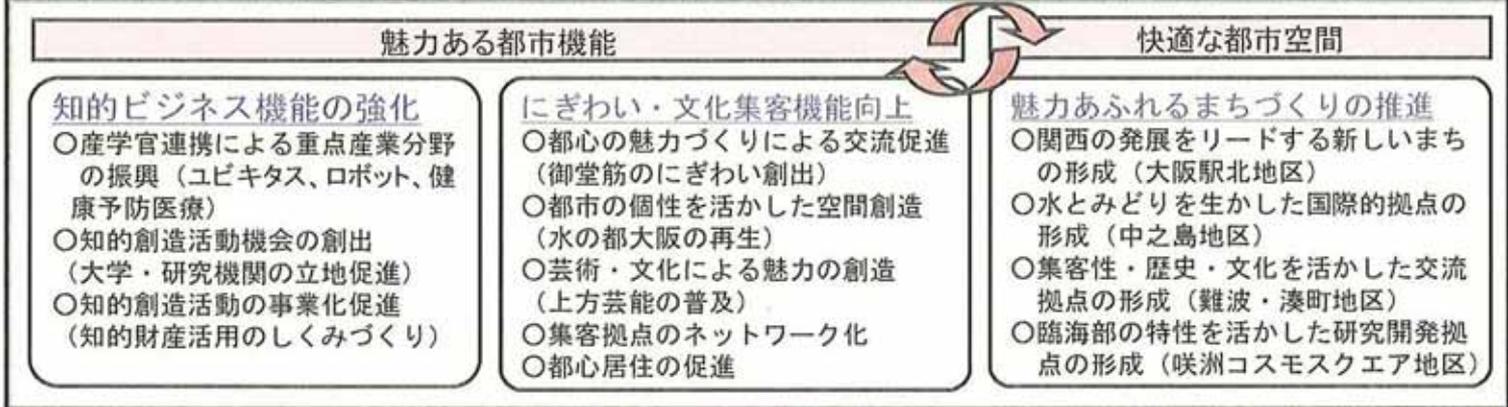


人口・インフラの集積を活用し、日本の経済・文化を牽引する大阪圏

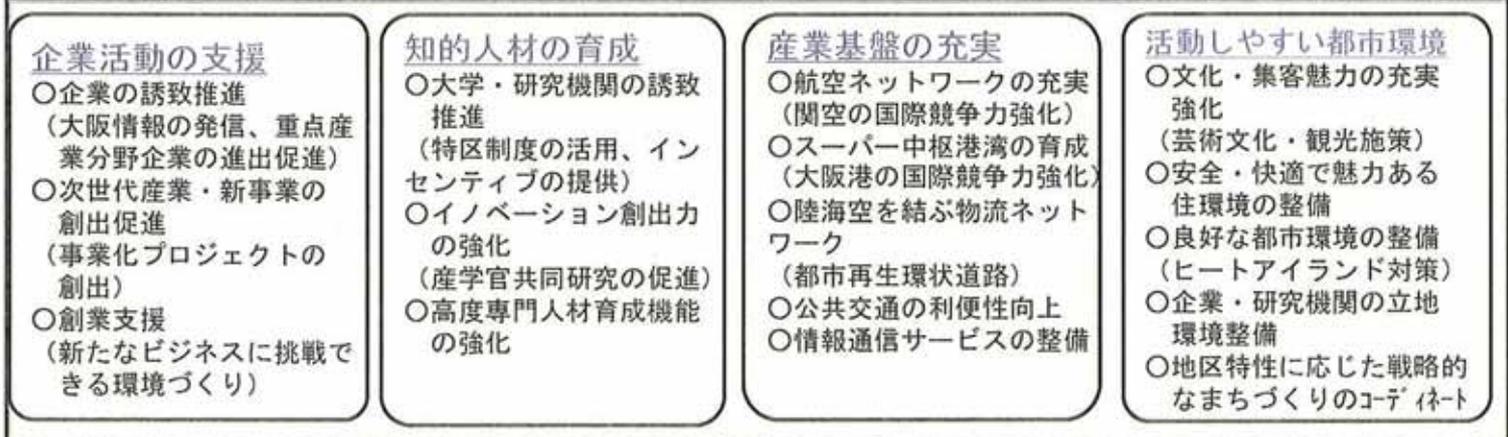
国際競争力のある産業(活力エンジン)は人材の集積から生まれる



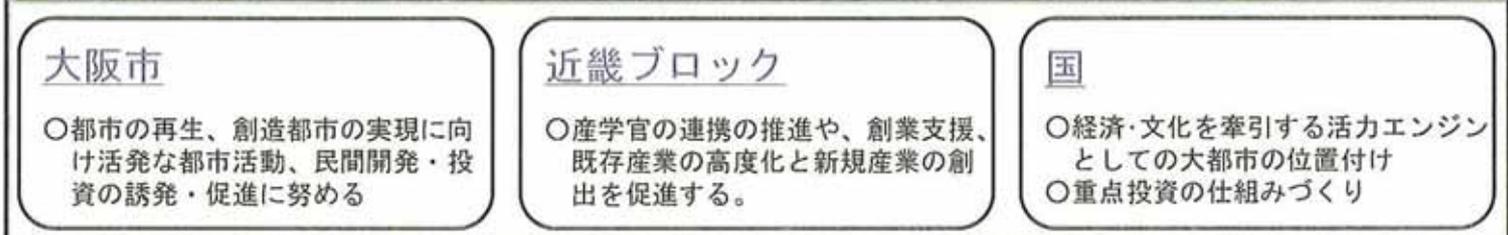
創造的な人材は魅力ある都市に集まる



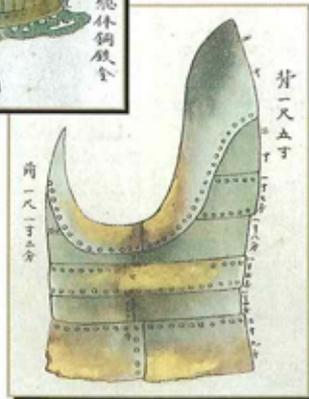
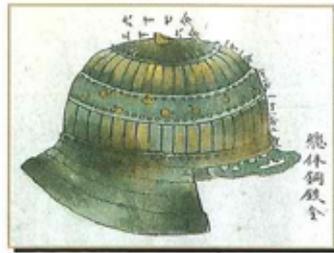
知的創造活動の支援



国・地方・経済界が連携して活力エンジンを強化する



それは、技術の粋をつくし
民の力を結集し創造された…



(個人蔵)



(堺市立中央図書館蔵)

千五百年の時を経て
これからもまた、
わたしたちは未来へ守り伝える…

百舌鳥古墳群は 世界的な遺産です



神戸医療産業都市構想の今後の推進体制

京都バイオシティ構想

18年12月26日
神戸市提供資料



第5回神戸健康科学
(ライフサイエンス)振興会議
(平成18年11月)配布資料
からの抜粋